

## 普及活動情勢報告（平成 29 年 3 月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

### 環境制御技術実証施設の研修 ～新規就農者研修会～



農業担い手育成センター実証施設  
を見学

2月20日、管内の新規就農者を対象に、高知県立農業担い手育成センターで行われている環境制御技術を活用した栽培実証の取り組みについて学ぶ研修会を開催し、19人が参加しました。

温湿度管理や炭酸ガス施用方法などの先進技術導入施設と、品目ごとに定植方法や仕立て方法を変えた収量比較試験などについて、農業担い手育成センター担当職員から説明を受けました。

農家は場では実践が困難な取り組みも多く、参加者からは「収量比較の結果がどうなるのか知りたい」など高い関心を持つようになりました。

今後も、このような新規就農者を対象とした取り組みを継続して実施していきます。

### 農家と取引先との情報交換の実施 ～加工用ワサビ現地検討会～



実証ほの調査結果中間報告

2月23日、J A津野山管内の2農家のハウスにおいて取引先と園芸連も参加した加工用ワサビ現地検討会が開催され、生産者8名（7戸）及びJ A土佐くろしおからも農家1名が参加しました。

農業改良普及課から実証ほ2ヶ所で行っている生育及び温度等調査結果を説明したところ、日ごろの栽培管理で気になっている点等を生産者間で情報交換する様子がみられ、今後の管理に活かす現地検討会の内容となることが出来ました。

農業改良普及課は3月中旬に実施される収穫後期の取引先巡回時に向けて、J Aと連携して品質向上に向け支援していきます。

### キュウリの安定生産に向けて ～現地検討会を開催～



天敵を確認する生産者

3月2日、須崎市内現地ほ場でキュウリの生産者20名が参加し、環境制御技術、I PM技術の現地検討会を開催しました。炭酸ガス施用下での品種比較試験と、スワルスキーカブリダニとリモニカスカブリダニの天敵利用実証試験について途中経過を報告しました。

生産者に耐病性や収穫果率、草姿の違いなどを説明し、「次園芸年度の品種選定の参考になる」といった声も聞かれました。また、天敵を導入した結果、害虫を抑制し、黄化えそ病が発生していないことや農薬散布回数が減少し、省力化につながっている現状が理解されました。

農業改良普及課は、今後もキュウリの安定生産に向けて、現地検討会や勉強会を通じて、農家のレベルアップに繋がります。

#### ミョウガの栽培技術の向上を支援 ～現地検討会を開催～



2月9日～3月2日にかけてJA土佐くろしおミョウガ部会を対象に現地検討会を4地区5ほ場で開催し132名の生産者が参加しました。農業改良普及課から、アメダスやハウスの温湿度調査データからミョウガにおける低収量要因や環境測定機器の導入の必要性について情報提供を行いました。例年より参加人数が多く、種根茎の大きさや活着促進などの質問もあり、初期管理についての重要性に理解が深まりました。農業改良普及課は、今後もJAと連携して、部会への情報提供を行い栽培技術の向上を支援していきます。

#### 茶 GAP 実施に向けて～茶生産組合総会の開催～



茶 GAP の意義を説明！

2月24日、津野町役場西庁舎において茶生産者・茶商・製茶機械メーカー等13名が参加し茶総会が開催されました。

農業改良普及課から、生産者版及び茶工場版 GAP の取組みの目的・必要性等を説明しました。茶の GAP については、県版 GAP を足がかりとした取組みを行うことを説明し、概ね出席者の理解が得られました。

農業改良普及課は、今後も茶 GAP の推進と定着に向けた活動を関係機関と連携して支援していきます。

#### 消費者に選ばれる包装を学ぶ～とさつ子広場ラッピング研修開催～



包装の改良について学ぶ

3月16日、JA土佐くろしお村営とさつ子広場において直販所生産者を対象にラッピング研修が開催され12名が参加しました。

農業改良普及課はJA土佐くろしおとともに研修を計画しました。ポップアート研究所臼井浩二氏を講師に招き、「商品の包装方法の改良について」や「生産者の紹介 POP づくり」について研修しました。参加者は包装の改良や生産者 POP の作成に意欲的に取り組んでいました。

農業改良普及課は、今後も直販所の売上向上に向けて関係機関と連携して直販所への研修を支援していきます。

#### 地域の意見を普及活動に活かそう！！～普及推進協議会の開催～



地域の意見を普及に反映

2月28日、農家、関係機関10名の参加を得て、第2回須崎地域農業改良普及推進協議会が開催されました。平成28年度の活動実績の報告、質疑の他今年は、「担い手の確保育成」をテーマにご意見をいただきました。委員からは、「提案書をもとに担い手の確保をしていきたい」「地域のデータ分析を掘り下げて欲しい」という意見が出ました。

農業改良普及課は、今後も現場の意見を大事にし普及活動に活かしていきます。